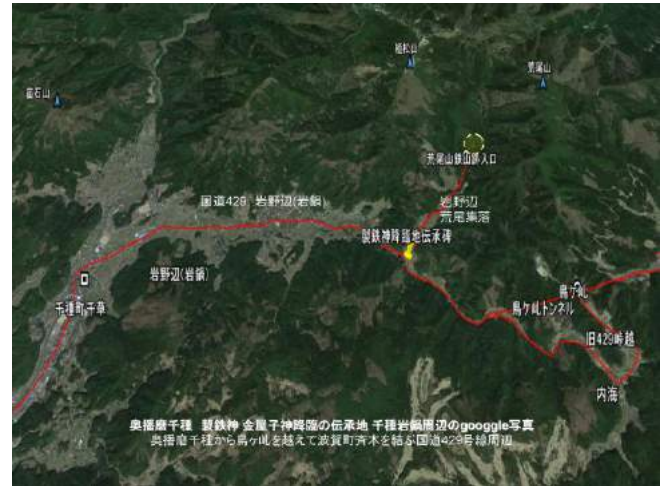


2016 Iron
09

奥播磨 古代の製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鍋にある近世の製鉄遺跡
大坂泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾鉄山遺跡を訪ねる 2016. 7. 20.



古代の製鉄神 金屋子神降臨の伝承地の碑が建つ国道 429 号 岩鍋荒尾集落の入り口

右手奥に近世の鉄山跡が眠る荒尾山が見えている 2016. 8. 20.

中国山地の峰が連なる古代からの奥播磨の製鉄地帯千種には是非訪ねたい製鉄遺跡がある。

中国山地から南へ流れ下る千種川水系と揖保川水系に挟まれた源流部一帯の谷筋には 千種鉄・穴栗鉄と呼ばれる古代からのたたらの郷 たたら跡が点在する。

二つの川を西の千種から鳥ヶ峠の山並みを隔てて東の波賀町齊木へ結ぶ国道 429 号線。 古くからのたたらの郷を結ぶ街道である。

その千種側から鳥ヶ峠を越える峠道にかかる荒尾山の麓 荒尾集落の入り口に「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地」の碑があり、 また すぐそばに、10 年ほど前から荒尾山鉄山跡の案内標識が立っている。

この国道 429 号を通るたびに気になり、資料も読んだこともあるのですが、たたらの跡の現場に立ったことはなし。 ここから、荒尾山へ登る道が紹介されるようになり、その山歩きの記録の中に たたら跡が紹介されているのを幾つがを見つけ、道筋が分かったので ぜひ出かけようと。

7 月 20 日早朝 山中の様子がよくわからないので、朝早く飛び起きて ワクワクで出かけてきた久しぶりの古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地千種「岩鍋」。 やっと「荒尾山鉄山跡」を訪ねられたことに満足一杯でした。



◆ 奥播磨 佐用・宍粟の製鉄遺跡分布図 ◆



◆ 大坂泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋) 近世の荒尾鉄山遺跡 ◆



以前から国道 429 号線鳥ヶ此の山越え道を通る毎に気にかかっていましたが、緑に包まれた山中に静かに残っていました。

夏の真っ青な空に堂々とした姿をくっきりと見せる鳥ヶ此の山々。緑の山中を流れ下る谷川 たたら郷 岩野辺。荒尾の集落の奥 杉木立に包まれた荒尾山の林道に分け入ると 水しぶきを上げる谷川に沿って 幾段にも並んだ石組みが現れた。遺跡入口には、足元に小さな石仏が祀られて大岩が神々しく鎮座し、背後にそびえる荒尾山と相対する磐座を思わせ、一層 この一帯が「古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地」との強い結び付きを感じました。



古代の製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千草岩鍋にある荒尾山鉄山製鉄遺跡 2016.7.20.

うれしい久しぶりの製鉄遺跡現地に身を置けて気分爽快。遺跡の石組みを思い浮かべつつ、満足いっぱい。国道 429 号線の街道筋からは見えてこない 素晴らしいたたら郷がひっそりと緑に包まれてありました。

荒尾鉄山遺跡

こは千種町岩野辺字荒尾にあるところから「荒尾鉄山」と称し、江戸時代から明治の初年頃まで操業したようです。河内の高尾鉄山が閉山して残りの砂鉄を大勢の女の人がカマスや粉鉄負いで荒尾山へ背負って運んだのを見たという話が残っています。

この土地は個人の所有地で開発計画もないところから、発掘調査もなされておらず、経営者も地元の人でないこともあって詳しい事はまだ十分に知られていません。

下から上へ来た正面の大きな岩の下に雨を避けるように地蔵さんを刻んだ石碑が建っています。

願主は大坂の泉屋(後の住友財閥の祖)と曾根(高砂市)の紀国屋(みかんの紀の国屋ではない)の二人が山内の安全や良鉄量産を祈願したようです。嘉永三年(一八四九)幕末の頃に建てています。しかしその三十六年後には近代製鉄に押されて閉山となっています。たたら場への道と新しい林道の間に墓地がありますが、一基だけ「三河国松平社常蔵」と読み取れる石碑があり、人々の交流の広さが偲べれます。

(文責者 上山 明)

荒尾鉄山遺跡見取図



岩野辺自治会



六栗市指定史跡 荒尾鉄山跡

所在地 六栗市千種町岩野辺字荒尾

〔指定年月日〕昭和五十七年三月十日

〔概要〕荒尾集落から川沿いを五百メートルほど登った山中に石垣が残る荒尾鉄山は高殿(たたら)、勘定場、事務所、砂鉄炭小屋(材料庫)、山内小屋(社宅)など、複数の建物群で構成された製鉄施設の跡である。

遺跡跡の大尾屋鉄山跡に比べるとやや小規模であるが、中を幅二メートル程の通路が貫通し、道の左右に作業の順序に合わせて施設が配置されている点特徴的である。

荒尾鉄山の正確な操業期間は不明であるが、おおむね江戸時代中期から明治時代前期までと推定される。鉄山跡の入口には、嘉永二年(一八四九)の年期が入る地蔵菩薩の供養碑が立てられ、以下の銘が刻まれる。

嘉永二西七月廿四日
大願主 大坂泉屋
曾根紀ノ国屋
発起人施主 山奉行安兵衛
人足吉力 山内中



大願主の大坂泉屋は、鉄山業で財を成した住友家の分家であり、江戸時代後期には大尾屋など複数の鉄山を運営していた。また、荒尾の鉄山跡には河内(愛知縣)出身者の墓があり、鉄山関係者の幅広い交流がうかがわれる。

参考文献 鳥羽弘毅『たたらと村』ほか



ずっと気になっていた古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」

営まれた時代は古代からずっと後の江戸中期頃から明治初めの製鉄遺跡であるが、「岩鍋の地のどんなところで 鉄が吹かれたのか？」 興味津々でした。

緑に包まれた細い谷川が流れ下る荒尾山の山中の杉林の中に、ひっそり静かに鉄山跡の石組みが埋もれていました。本当に久しぶりに見る緑の中にうずもれたたたずむ跡 心地よい空間でした。

- ◎ 案内板には石組みで区切られた鉄山の諸施設の位置と区割りが示されていましたが、石組みの台地の上には間伐された杉の枝や葉が覆われてたり、生い茂る樹木で覆われ、施設の痕跡を見ることはできませんでした。
- ◎ ただ あちこち石組みの上を歩き回って、地面に落ちていた鉄スラグなどの小片を幾つも見つけることができました。荒尾山鉄山遺跡入口の大岩は今は緑に覆われた山中 余計に神々しく、遺跡背後にそびえる荒尾山と相対する磐座を思わせ、一層 この一帯が金屋子神降臨伝承地との強い結び付きを感じました。

なお、登山者の記録にこの鉄山の金屋子神の祠があるとあったので あちこち鉄山の中を歩き回りましたが、見つけれませんでした。

(後日 千種町に照会しましたが、もう 今では祠跡はわからないでしょうということでした)

遺跡を後にして、荒尾集落を抜け、国道 429 号の集落入り口までもどって来ました。



このすぐ東の鳥ヶ峠をトンネルで抜けて、揖保川水系の波賀町に抜ける。 この「峠」 不思議な地名であるが、千種周辺には「峠」とつく地名が多く、稜線越えの「峠」につけられた地名だという。

トンネルができるまでは鳥ヶ峠の山の上まで登って、波賀町へ超える。 難度がかつて超えたことはあるのですが、トンネルができてからは越えたことなく、久しぶりに 鳥ヶ峠の山の上の峠まで行ってきました。

トリガタワの由来

その昔、千種町と波賀町
香木との境界の時に観音様をお
祀りしたお堂があり、両町から
村人が集ってお祈りしたがある
日、双方の村人がお互いに自分
の村にこの観音様を持ち帰りお
祀りしたいといひだしたこの時で
話し合ったがどちらにも譲らずタ
方になっても決着がつかないの
で古来の提言で、明日の朝一
箇の声を合図に村を出て早くこ
こに来たほうが連れて帰ること
で話し合いがつき、夕陽の中、
それぞれ村に帰っていきまし
た。岩野辺の人々が山をおり高橋の
所まで帰ったとき、急にあたり
が夜明けのように明るくなり大
石の上で黄金の光が目に見えれ
大さく羽撃き、「コケゴロー」
と天に向かって鳴いたので村人
は大変不思議なことが起こった
と驚き、これは、観音様が岩野
辺に参りたいというお告げに違
いないと、早速引き返して観音様
を大切に持ち帰りお祀りしたぞ
うです。

これが、現在、岩野辺集落の
本陣だと言われている、その頃
からこの峠を「トリガタワ」と
呼ぶようになったそうです。



古くからの街道筋であることを示す「峠」の伝承が残っている鳥ヶ峠



7月20日 朝早く飛び起きて ワクワクで出かけてきた久しぶりの千種のたたら跡
 古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」を訪ねられたことに満足一杯。
 うれしい久しぶりの製鉄遺跡現地に身を置いて気分爽快。 遺跡の石組みを思い浮かべつつ、満足感いっぱい。
 国道 429 号線の街道筋からは見えてこない 素晴らしいたたら郷がひっそりと緑に包まれてありました。
 千種烏ヶ峠の山並の山裾に広がるたたら郷 岩野辺の田園を眺めながら千種の街へ下ってゆく。

奥播磨千種 製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鍋にある近世の製鉄遺跡
 大坂の泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋) 荒尾鉄山遺跡を訪ねる 2016.7.20.



ずっと気になっていた古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」
 営まれた時代は古代からずっと後の江戸中期頃から明治初めの製鉄遺跡であるが、「岩鍋の地のどんなところで 鉄が吹かれたのか？」 興味津々でした。また、この製鉄遺跡が、別子の銅山開発で発展し、財閥になった住友の流れの泉屋の分家、泉屋理助家が千種などで広く鉄山経営をしていたその千種の鉄山の一つであることに。

住友グループの住金も新日鉄のグループに入って 住友グループから遠くなってしまって、鉄の痕跡が消えていきそう。
 相互に混じり合わぬ金属の水と油と 言われる鉄と銅。 でも銅鉱石には常に鉄鉱石成分が混じり隣り合う金属でもあり、
 また 別子銅山でも銅から鉄の取り出しを試みたことがあると聞く。そんな金属商 泉屋の系譜の中にも、鉄商がある。
 でも 泉屋と鉄のかかわりについてはよくわからず、住友の近代製鉄として取り上げられてきた。
 でも この千種ばかりでなく、中国山地のたたら郷には ほかに幾つか 泉屋の痕跡が残っている。
 鉄商がどんな位置づけだったのかと 興味を抱いています。

緑に包まれた細い谷川が流れ下る荒尾山の山中の杉林の中に、ひっそり静かに鉄山跡の石組みが埋もれていました。
 遺跡は私有地のためなのか、まだ詳細調査されぬままのようです。

- ◎ 案内板には石組みで区切られた鉄山の諸施設の位置と区割りが示されていましたが、石組みの台地の上には間伐された杉の枝や葉が覆われていたり、生い茂る樹木で覆われ、施設の痕跡を見ることはできませんでした。ただ あちこち石組みの上を歩き回って、地面に落ちていた鉄スラグなどの小片を幾つがを見つけました。
- ◎ 荒尾山鉄山遺跡入口の大岩は今は緑に覆われた山中 余計に神々しく 遺跡背後にそびえる荒尾山と相対する磐 磐座を思わせ、一層 この一帯が金屋子神降臨伝承地との強い結び付きを感じています。そして、この入り口の大岩の下にある祠の地蔵尊の碑の裏には この鉄山の安全や繁栄を願う願主泉屋の名が刻まれている。 「鉄」と「銅」は常に隣り合う金属・鉱石であり、金属取り出しの製錬にも共通技術があったはず。「分家」とは言いながら技術の展開の中で、泉屋の分家が 鉄商を一括して担ってきたのではなかったか?」と常々思いを巡らしてきました。
- 「鉄」と「銅」の近い関係を視点に 住友・泉屋が担った地域の産業育成・地域振興の役割などについてもさらにたたら跡がベールを脱げば 明らかになってゆくのではないかと期待している。

近い将来この遺跡や周辺がきっちり調査され、この岩鍋の地の製鉄伝承がもっとクリアーになっていくこにも期待したい。

暑いが、快晴の午後 たたら郷千種の風を受けながら
久しぶりにたたら遺跡跡に立てた満足感一杯で千種を後にする

2016.7.20. 午後 満足感一杯で 千種川沿い原チャリを走らせながら

参考資料

1. 鳥羽弘毅氏著「たたらと村 千草鉄とその周辺で」 1997.3.10. 千種町教育委員会
2. 【和鉄の道・Iron Road】 *by Mutsu Nakanishi*
西播磨の古代製鉄地帯 宍粟・佐用の製鉄関連遺跡 探訪 関連掲載
1. 古代鉄の大王国 播磨国 「千種鉄」「岩鍋」古代製鉄神 金屋子神 降臨伝承の地
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb01.pdf>
2. 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる 2013.7.19.
千種天児屋たたら跡・岩鍋古代製鉄発祥の地伝承の碑を訪ねる
<http://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1308chigusa00.htm>
3. 奥播磨 千種川に注ぐ志文川源流 たたら郷 宍粟市山崎町小茅野（こかいの）集落を訪ねる 2010.7.20 .
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf>
4. たたら郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる 2009.6.21.
奥播磨黒尾山西北山麓 宍粟市山崎町 野々隅原 大国牧場 花のWalk
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf>
5. たたら製鉄 砂鉄採取の地形 西播磨 砥峰高原 一面ススキが覆いつくす 砥峰高原 2007.10.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf>
6. 産鉄の地 「御方里」の里を訪ねて 一宮町 2004.6.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf>
7. 「御方里」周辺 安積山製鉄遺跡探訪 一宮町 2004.2.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf>
8. 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk 西播磨 佐用町 大撫山製鉄遺跡を訪ねて 2003.11.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf>

奥播磨千種 古代の製鉄神金屋子神降臨の伝承地 千種岩野辺(岩鍋)近世の製鉄遺跡 大坂泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾山鉄山遺跡を訪ねる 2016. 7. 20.

奥播磨千種 製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩野辺にある近世の製鉄遺跡
大坂の泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾山鉄山遺跡を訪ねる 2016.7.20.

中国山地の峰々が連なる古代からの奥播磨の製鉄地帯千種には是非訪ねたい製鉄遺跡がある。中国山地から南へ流れる千種川水系と播磨川水系に挟まれた源流部一帯の谷間には千種鉄・中央鉄と呼ばれる古代からのたたら跡が点在する。二つの川を西の千種から鳥ヶ丸の山頂を隔てて東の波賀町齊木へ結ぶ国道429号線。古からのたたら跡を結ぶ街道である。

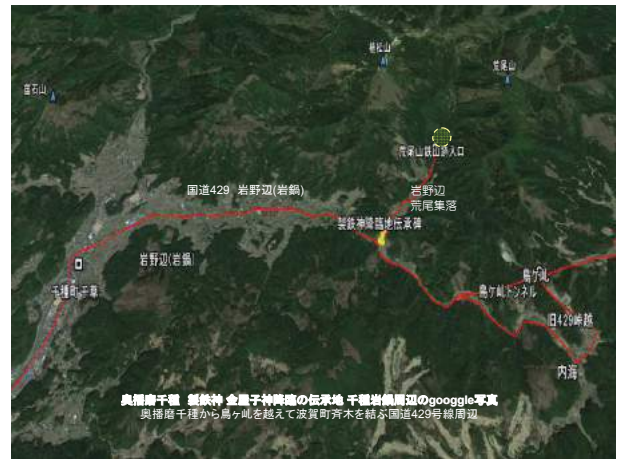
千種からこの鳥ヶ丸を越える峠道に於ける荒尾山の麓 荒尾集落の入り口に「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地」の碑があり、また、すぐそばに、10年ほど前から荒尾山鉄山の案内標識が立っている。この国道429号を通るたびに、資料も読んだことあるのですが、たたら跡の現場に立つことはなし。

ここから、荒尾山へ登る道が紹介されるようになり、その山歩きの際の中にとたら跡が紹介されているのを機つが、道筋が分かったので、ぜひ出かけよう。

この山中から荒尾山への登山道は枝尾根をよじ登る道ではっきりした道はないと記されている。



「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地」碑が建つ国道29号 千種岩野辺荒尾の麓入口 2016.7.20.
線に包まれた千種の山並みに包まれた古いたたら跡を結ぶ街道筋北に荒尾山が見える



奥播磨千種 製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩野辺のgoogle写真

奥播磨千種から鳥ヶ丸を越えて波賀町齊木を結ぶ国道429号線周辺



中国山地千種・中央 三つの水系 たたら山並を結ぶ街道と広域基幹林道 峰山線
千種一帯が鳥ヶ丸・波賀一帯・杜の伝説・広域基幹林道・峰山線・神降臨寺前
(西) 千種川水系→鳥ヶ丸一帯・播磨川水系→播磨高原(林道峰山線)→市川水系 (東)



千種北郎(佐用郡・大津町)の製鉄遺跡



奥播磨千種 製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩野辺にある近世の製鉄遺跡
大坂の泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾山鉄山遺跡を訪ねる 2016.7.20.

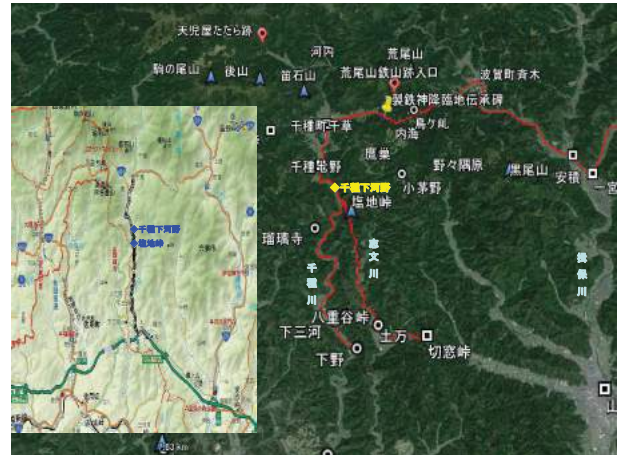
「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地」碑が建つ国道29号 千種岩野辺荒尾の麓入口 2016.7.20.
線に包まれた千種の山並みに包まれた古いたたら跡を結ぶ街道筋北に荒尾山が見える

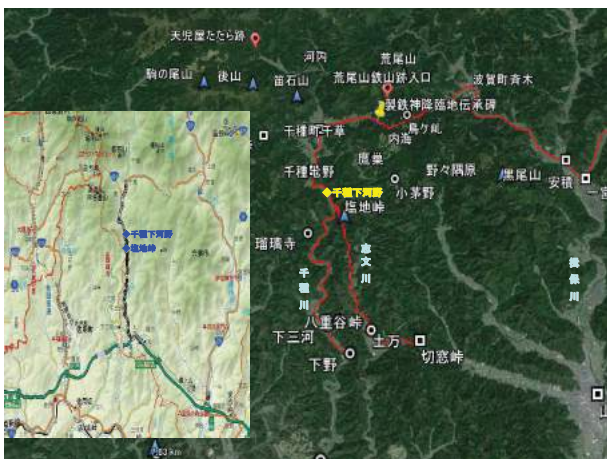


中国山地千種・中央 三つの水系 たたら山並を結ぶ街道と広域基幹林道 峰山線
千種一帯が鳥ヶ丸・波賀一帯・杜の伝説・広域基幹林道・峰山線・神降臨寺前
(西) 千種川水系→鳥ヶ丸一帯・播磨川水系→播磨高原(林道峰山線)→市川水系 (東)



「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地」碑が建つ国道29号 千種岩野辺荒尾の麓入口 2016.7.20.







千草の街から 国道429号を東へ 岩野辺地区に入る 2016.7.20
道路の右を岩野辺川流れ下り、田園地が広がる広く明るい谷筋である



岩野辺川正面に荒尾山・鳥が吼の山並 2016.7.20



国道南の岩野辺川岸より 岩野辺地区を眺める 2016.7.20.



岩野辺より 振り返って西側千種の街& 千種川西岸 岡山県境の山並 2016.7.20.
右端に千種の街の象徴 笛石山 その後ろに後山が重なって見えている 10:46



国道29号から離れ、南の岩野辺川の丘から荒尾山・鳥が吼の山並 2016.7.20.



国道道脇に「古代創統神 金屋子神伝承の地」碑が建つ岩野辺荒尾集落入口 2016.7.20.



岩野辺の集落を抜け、鳥が吼の峰道にかかる 交通量も少なく静かな山中である 2016.7.20.



国道道脇に「古代創統神 金屋子神伝承の地」碑が建つ岩野辺荒尾集落入口 2016.7.20. 10:51





荒尾の集落を抜けさらに奥へ林道を行く 2016.7.20.
金剛峰から入ってすぐ林道沿いの崖に立派に整備された荒尾家の墓が2基ありました。
このあたりの田舎で林道の奥に広がる荒尾の山々一帯も代々荒尾家によって「守られてきたのだろう」



地元の人たちによって建てられた案内板が立つ荒尾川沿いの荒尾山鉄山跡への入口 2016.7.20.



杉林の中 荒尾川に沿う林道を少し登ると林道が左へカーブする角に看板が立っているのが見える
この場所が、案内板のある道を右へ荒尾山鉄山跡への入口である 2016.7.20.



荒尾川沿いの道の向こうに荒尾山鉄山跡への入口がすぐ見える 2016.7.20.



荒尾山鉄山跡入口にある地蔵さんを囲んだ折原洞 2016.7.20.
碑の裏に刻まれた墓文から、墓主はこの山を運営していた大坂泉屋が山内の安全や
良質の鉄の産産を祈願したものと書かれる。



古代の銅鉄神 金屋子神降臨の伝承地 平家岩棚にある荒尾山鉄山銅鉄遺跡 2016.7.20.
以前から国道29号線沿いの山鉄山跡を巡る道に古くからありましたが、奥に包まれた山中に静かに残っていました。
皇の真の神聖空間に皇々をもたせ、安んずり守り、見守る神の山に、神の山中を流れる谷川「たらの川」岩野辺、荒尾の
集落の奥、杉木立に包まれた荒尾山の林道に分注入ると、水は突き止まる谷川に沿って、幾段にも登る石段が見え、
道頭入口、足元に小さな石仏が祀られて、開闢する谷は神聖に、背後にそびえる荒尾山と相対する静寂を思わせ、
一帯、この一帯が金屋子神降臨伝承地の深い神聖性を示しています。うまいいふふりの岩鉄遺跡、奥地に身をまけて美
分爽快、遺跡の石組みを思い浮かべ、満足感に満ちた。
国道429号線の国道筋からは見えていない、奥山沿いの山鉄山跡の奥がひっそりと静かに包まれてありました。



荒尾山鉄山の入口 大岩と荒尾山鉄山の案内板 2016.7.20. 11:09



江戸中尾から明治初め 近世の鉄山 荒尾山鉄山跡 20106.7.20.

石組みで段々に整地された鉄山麓施設があった遺所の中央を
高際のある上部奥へ真っすぐ 坂道がのびている。
この道が鉄山の中央道だろう



江戸中尾から明治初め 近世の鉄山 荒尾山鉄山 施設配置図



江戸中尾から明治初め 近世の鉄山 荒尾山鉄山跡 20106.7.20.

石組みで段々に整地された鉄山麓施設があった遺所の中央を
高際のある上部奥へ真っすぐ 坂道がのびている。
この道が鉄山の中央道だろう



荒尾山鉄山跡 20106.7.20.

鉄山麓施設があった石組みで段々に整地された地には 倒伏した杉の枝や草木や
笹木などが表面を覆っていて 鉄山麓施設の痕跡はよくわからない



荒尾山鉄山跡 最上部(中央道左) この立派な石組みの上が高際と思われる 20106.7.20.



荒尾山鉄山跡 左に荒尾川が流れる石組みで段々に整地された最上部(中央道左) 20106.7.20.

この周辺が高際と思われるが、大きな石組みの上が手前がよくわかる



荒尾山鉄山跡 最上部(中央道左) 高際と思われる石組みの上 20106.7.20.





荒尾山鉄山跡 中央道 2016.7.20



荒尾山鉄山跡 入口周辺を流れ下る荒尾川 2016.7.20



荒尾山鉄山跡 1.5kmの左を流れ下る荒尾川に沿って 2016.7.20



荒尾山鉄山跡を後に山頂を目指して 2016.7.20 12:06



杉木立の中の林道を戻る 2016.7.20



林道入口に戻って 荒尾川岸の木道に入って 川音を聞きながら昼食に 12:10



荒尾の背後に荒尾山がそびえる荒尾集落に戻ってくる 2016.7.20 12:50

ずっと気になっていた古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩鏡」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」
 営まれた時代は古代からずっと後の江戸中期頃から明治初期の製鉄遺跡であるが、「岩鏡の地のどろどろで 鉄が吹かれたのか？」興味津々でした。
 緑に包まれた深い谷川が流れ下る荒尾山の山中の杉林の中に、ひっそり静かに鉄山跡の石組みが埋もれていました。本当に久しぶりに見る緑の中にうずもれたたたた跡 心地よい空間でした。
 ◎ 案内板には石組みで区切られた鉄山の跡施設の位置と区別が示されていますが、石組みの台地の上には 隠れた杉の枝や葉が覆われて、生い茂る樹木で覆われ、施設の痕跡を見つけることはできませんでした。
 ◎ ただ あちこち石組みの上を歩き回って、地面に落ちていた鉄スラグなどの小片を幾つも見つけることができました。
 荒尾山鉄山遺跡入口の大岩は今は緑に覆われた山中 余計に神々しく 道跡背後にそびえる荒尾山と相対する景観を思わせ、 一層 この一帯が金屋子神降臨伝承地との強い結びつきを感じました。
 また、登山者の記録にこの鉄山の金屋子神の祠があるとあったので あちこち鉄山の中を歩き回りましたが、見つけられませんでした。(後日 千種町に照会しましたが、もう 今では祠跡はわからないでしょうということでした)



